

穂学



令和4年度

広州日本人学校 学校便り

[No.1]

令和4年4月13日(水)

発行責任者 校長 加藤康徳

「令和4年度が始まりました。」

広州日本人学校の令和4年度は、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止対策による休校措置で始まりました。入学式は中止となり後日「入学を祝う会(仮称)」を開催する予定)、本日は始業式、そして、その後WEB上で授業を行うなど、子どもたちには大変申し訳なく思っております。

なお、喫緊の問題は市行政府の予定通り4月18日(月)から通常の授業ができるかということです。

そこで、本校はコロナ禍の中でも「子どもたちの教育を止めない」を合言葉とし、4日間の日程で各先生が動画を作成し、時間を決めてWEB上で授業を行うことにしました。

ただ、昨年度の穂学 NO4「学校における危機とは」でも述べましたが、「子どもの教育の保障」は学校だけで守ることはできません。コロナの感染というリスクを「市行政府」「保護者」「学校」がそれぞれの責任において、その役割をしっかりと果たすことで「危機」を最小限に止めることができると考えています。

特に在外教育施設である本校は「日本人社会と中国人社会」、「中国の法規に基づく部分と」「日本の教育法規に基づく部分」、「子どもの教育の保障とコロナ感染拡大防止対策」と、さまざまな対比関係の狭間の中で学校の教育活動を進めていかなければなりません。今年度も昨年度同様に三者(市行政府、保護者、学校)が協力することで、このコロナ禍を乗り越えていきますので、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。(※お願いについては主にロイロノートで文書を配信していますので、毎日チェックしてください。)

また、昨年度の穂学 NO18「折り合いをつける」で述べたように、三者が折り合いを付けながらそれぞれの役割を果たし、より適切に子どもの教育を守ることで更にお互いの信頼関係を深めていきたいとも思っています。

令和4年度は、休校という想定外の形でスタートを切ることになりました。日本から派遣された教職員が隔離中であるため、4月はおよそ2/3の教員でカバーし合いながら教育活動を進めいかなければなりません。課題はいろいろありますが、一つ一つ確実に「BETTER」を探し出して解決に結び付けたいです。

本校は今年度も「知恵と勇気と信頼関係」をもって教育活動を進めていきますので、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくをお願いいたします。



< ↓各教室での動画作成の様子↑ >



「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」

<校長の思い>

令和3年度からは新学習指導要領（中学校）が本格的に実施となり、学校の特色を生かした「主体的・対話的で深い学び」のある新たな教育が、スタートするはずであった。

しかし、本校においては新型コロナウイルス感染防止対策のために当初の計画は削減・縮小・変更を余儀なくされた。

ただ、このような「教育のラッピング状態」の中でも、本校は「子どもの教育を止めない」を合言葉に教育内容の工夫・改善を図ることで、昨年度においては最低限の子どもの教育活動を保障することができたと考えている。

そこで今年度は、「教育のラッピング状態」から一歩先を見据え、これまでの教育課題、そしてこれから予想される教育課題に積極的に対応するために、教育内容や組織の体制などの改善を図り、広州市の日本人社会から期待される学校としての存在価値を高めながら「子どもが本校とのつながりを未来でも実感できる」教育活動を推進し、子どもの「豊かな学び」を実現させる。

1. 本校の教育

<教育目標> 「自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒の育成」

<めざす子ども像>

- 自ら考え、進んで学力の向上に取り組む子・・・「知」
- 自らちがいを認め合い、共に生きていく子・・・「徳」
- 自ら健康と安全に気を付け、たくましく生きていく子・・・「体」

2. 学校経営スローガン

「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」



<5つの「つながり」とは>

- ① 教師とのつながり
- ② 授業とのつながり
- ③ 子ども同士のつながり
- ④ 保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤ 中国とのつながり

(国交正常化50周年)



<学校経営のシンボルマーク>

3. 学校経営の重点

安易な前年度踏襲に陥ることなく常に向上心・探究心を持って教育活動を展開し、高い資質や能力に裏打ちされた教育集団が真に子どもたちを成長・変容させる学校であると考え。今年度は、「具体的取組の視点」をしっかりと持ち、「つながり」を意識しながら学校という組織の総力を上げて教育活動を推進する。

<重点目標>

- (1) 授業を通して、確かな学力の向上を図る。
- (2) 異文化と共生できる資質や能力の育成を図る。
- (3) 全教育活動を通して、道徳教育の充実を図る。
- (4) 健康教育や体力向上の推進を図る。
- (5) 教育環境の整備（ICT等）の充実を図る。
- (6) GR-PDCAを意識した教育活動の推進を図る。



<学校経営サイクル>